

第4回 西条市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日時：平成26年12月5日 13:30～
場所：西条市役所 本館5階 大会議室

1 開会

2 会長あいさつ

- ・年末のお忙しい中、ご参集いただき誠にありがとうございます。
- ・計画の策定に向け、市民へのアンケート調査や企業等へのヒアリング調査を実施し、移動実態等の把握に努めてきた。
- ・本日は、それらをふまえた「西条市地域公共交通網形成計画」の素案について議論を行いたい。それを受けて、2月頃にパブリックコメントも実施していくこととしている。
- ・委員の皆様には、忌憚のないご意見をお聞かせいただき、実りの多い会となるよう、よろしくお願ひしたい。

3 協議事項 「西条市地域公共交通網形成計画(素案)」

○事務局

<資料1・2 説明>

○愛媛運輸支局

- ・非常に熱い思いの入った計画書になっていると思う。
- ・12ページに、利用者数の推移が示されているが、バス利用者は全国的に減少傾向となり、愛媛県で言えば昭和40年代に9500万人だったのが、近年では1370万人となっている。瀬戸内運輸でみると、ピーク時の5%くらいまで落ち込んでいる。これでは車両更新ができないのも当然である。
- ・マイカー社会の中で、バスの必要性について改めて考える必要がある。温暖化対策の面や、東日本大震災の際の輸送貢献もある。バスを社会のインフラとして残すことを考えてほしいと思う。

○事務局

- ・バスの利用者を増やすためには、地域自ら取り組むことが必要だと思う。より地域に入っていく、地域ニーズにあったバスを検討したい。
- ・スケジュールをご覧いただきたいが、パブリックコメントとして総合支所や公民館にこの計画書を置いて、市民の皆様からご意見を聴く機会を設けたい。それだけではなかなか見てくれないので、事務局からも各団体に出向いて、直接ご意見を聴く機会を設けたいと思っている。

○会長

- ・「パブリックコメント」という言葉が市民の中に浸透していないため、過去のパブリックコメントを見てもなかなか意見が出てこない。ぜひ団体に出向いて、聞いてきてほしいと思う。

○愛媛運輸支局

- ・パブリックコメントの期間はどのくらいか。

○事務局

- ・1月8日から2月9日まで行う予定だ。30日以上というのが目安になっている。

○愛媛運輸支局

- ・この計画は地域公共交通活性化再生法に沿って作られるものだが、施行規則等がまだまだ不明確な部分が多い。進捗はぜひお知らせしていきたい。

○事務局

- ・パブリックコメントが始まる前までに、地域公共交通活性化再生法の進捗を見つつ、適宜修正を加えたい。
- ・本日の意見だけでなく、今日言えなかった意見があれば事務局にお伝えいただき、12月中にはまとめたいと考えている。

○副会長

- ・高齢介護課では、65歳以上の交通機関の利用方法のアンケートを行っている。この調査にも重なる部分もあると思われるため、ぜひ参考にしてほしいと思う。
- ・アンケートをみると、85歳以下に比べて90歳以上の方が運転に危険を感じていないと考えているようだ。危険なことだと思うので、免許返納についても真剣に考えるべきだと思う。

○事務局

- ・回答者が5名なので、有効なサンプル数とはいえないと思われる。

○西条警察署交通課

- ・警察としては免許返納を推奨している。しかし車がないと移動ができない人も多いため、進んでいない。年齢に関係なくしっかりしている人も多いため、家族や本人の意思を尊重しないといけないところはある。
- ・免許返納は、バスやタクシーの割引とセットになると良いと思う。買い物の中で宅配してくれる事業所もあるので、そうした取り組みも拡がると良いだろう。

○高齢介護課

- ・第6期介護保険事業計画を策定中である。その中でサービス利用実態等を調査している。無作為に65歳以上の約5000名に聞いており、資料提供は協力したい。

○愛媛運輸支局

- ・16ページに、タクシー利用助成制度というのがあるが、これは何か。

○高齢介護課

- ・75歳以上の高齢者に対して、タクシーの基本料金を補助するチケットを配布している。1人あたり年間24枚提供している。
- ・外出サービス事業は、タクシーに乗れないような人が対象である。

○宮崎准教授（香川高等専門学校）

- ・地域公共交通活性化再生法が改正されて、11月20日に施行された。
- ・西条市の現状整理は行われたが、課題整理をもう少ししっかり行ってほしい。
- ・厚生労働省では地域包括ケアを推進している訳であるが、地域での予防が重要となっている。福祉部局では交通までは所管していないため、連携が取れていない場合が多い。こうした高齢者の外出についても考えてほしいと思う。
- ・西条市では、都市計画で「線引き」を廃止した経緯もある。

- ・四国では高速鉄道を国に要望しているが、新幹線の今治方面への分岐の際に、西条市が拠点になる可能性がある。これについても考えてなければならない。
- ・また、この計画はバスが中心に書かれており鉄道が書かれていない。都市間輸送については鉄道だけでなく、今治～新居浜については瀬戸内運輸も路線を持っており、位置付けを示すことも必要である。ただし、こうした都市間の話題については愛媛県の役割も求められる。
- ・タクシーの位置付けについても検討する必要がある。私は端末交通として位置付けることが必要だと考えている。
- ・アンケートについて、もう少し地域の移動実態を調べてほしいと思う。丹原と西条の間の移動などについても整理してほしい。
- ・38 ページで乗継結節について書かれているが、瀬戸内運輸ではバス⇄バス乗り継ぎに取り組んできた。ただし、鉄道⇄バスについてみると、伊予西条駅でバス停と駅の間に距離がある等、連携ができていない。今後の都市構造を踏まえて、乗継拠点を検討してほしい。
- ・しまなみ海道や石鎚山などの観光客の呼び込みについても触れておいてほしい。

○会長

- ・地域包括ケアについて、施設へのアクセスをどう考えるか。

○高齢介護課

- ・地域包括ケアに交通の視点は弱い。
- ・介護予防は、事業所が主体で進めてきた経緯がある。事業所は送迎を行ってくれるため、今は考えなくても良い。
- ・しかし、今後はボランティアや地域での予防事業が求められている。ボランティアには送迎がないわけであるが、地域住民グループが55か所あり、ミニデイサービスのよう なことをやっている。その委託費の中に送迎を盛り込むこととしており、それを計画としてまとめていくことが必要と考えている。

○建設部

- ・平成16年度に線引きを廃止したが、それに伴う影響として、中心市街地の近くで開発が進む等が行われている。ただし、優良農地では開発ができないので、乱開発はできない。
- ・4 ページに「拠点連結型都市構造」とあるが、都市計画としてはこのような考え方を採っている。

○会長

- ・新幹線構想については、フリーゲージトレインの導入を検討していた。フリーゲージトレインでは、今治からは狭軌路線で、西条を分岐点として西条から新幹線に入るような構想である。

○愛媛県東予地方局地域政策課

- ・高速路線については、市町からの要請が出てれば、本庁にて事務局を検討したい。
- ・広域路線については、運輸局と勉強会を始めたところである。

○愛媛県ハイヤー・タクシー協会

- ・30 ページに山間部地域別ワークショップとあるが、この中で「タクシーは高く乗ることができない」とある。そうした中で、新居浜では乗合タクシーを運行しており、地域の中で定着してきたところである。

○四国旅客鉄道愛媛企画部

- ・新幹線構想は会長の言う通りであるが、新幹線自体は国の事業であるため、当社単独での建設は難しいところであるが、当社としては新幹線を入れたいと考えている。北海道も九州も建設され、建設されないのは四国だけである。
- ・近年、高速鉄道に関する機運が高まっていると感じている。ぜひ四国に高速鉄道を入れていきたい。
- ・予讃線は昔からあまりダイヤが変わっていないが、お客さんから言われるのは、2次交通が不便であるということだ。こうした会議を通じて、地元の交通機関とのコミュニケーションを図っていきたいと思っている。

○瀬戸内運輸

- ・我々は新居浜から今治まで路線があるが、愛媛大学やがんセンターであれば、JRとの競合もなく利用者が定着している。
- ・JRでは電化が進み、都市間輸送のお客さんはずいぶんJRに行ってしまった。
- ・現状は、貸切と高速で一般乗合の赤字を補てんしている状況である。利用促進は進めていかなければならない。

○せとうち周桑バス

- ・バスの不満の中に、運行本数や乗り継ぎに関する意見がある。
- ・我々の路線は、瀬戸内運輸が廃止した路線を引き継いだ経緯がある。本数を増やせば運転手の配置がいるなど、取り組みにはどうしてもお金がかかるため、補助金とのバランスを見ながら進めていくしかない。

○愛媛運輸支局

- ・外国人観光客の話題が出たが、運輸局では国際線のある空港でヒアリングなどを行っている。
- ・便数を増やせばどうしてもお金がかかる。安全にはある程度お金がかかるのは仕方ない。バス事業者の気持ちも計画に入れてほしい。

○瀬戸内運輸労働組合

- ・運転手確保は全国的な問題となっており、瀬戸内バスの運転手の平均は48歳くらいである。また、若い人が第2種免許を持たなくなりつつあるため、将来の運転手確保は課題である。

○西条市医師会

- ・33 ページを見ると、85%が自家用車であるが、診療所になると100%近くが自家用車である。
- ・色々な患者がいるなかで、ノンステップバスやバリアフリーの要望はあった。現状では、医療機関の前にバス停がない。病院によって、その次にスーパーをよって、最後に家に戻れるようなルートがあると良いだろう。

○周桑商工会

- ・14 ページをみると、西条市が9000万円近くの補助金を支払っていることが分かる。一方、乗車人数が減っている。しかし、平成25年から26年にかけて、年間乗車人数が増えているのに補助が増えているのはどういう理由か。

○事務局

- ・バスの補助金は3つあり、国庫補助路線は国・県・市で補てんしている。市単独補助路線は、瀬戸内運輸と市で折半して補助している。せとうち周桑バスは、赤字を市で担っ

ている。

- ・補助金が増える理由は、原油価格高騰、車両修繕費、などが考えられる。
- 周桑商工会
 - ・限界集落のようなところをどうするかと合わせて考えてほしい。
- 西条商工会議所
 - ・入込客の声とか、宿泊者の声を聞く場面を作ってほしい。
- 西条市連合婦人会
 - ・この場に来て、はじめて知ることが多い。婦人会もパブリックコメントに協力したいと考えている。
- 宮崎准教授（香川高等専門学校）
 - ・25 ページをみると、満足度が低いわけだが、これはバス会社だけの問題ではない。
 - ・「分かりやすい情報提供」は、バス会社だけの問題ではない。病院に聞いたら教えてくれるようなことが必要である。この協議会を通じて、色々な人がバス改善について取り組んでほしいと思う。
 - ・「幹線」がバスと鉄道で重複している部分がある。ぜひ愛媛県の主体性を期待したい。
- 倉内准教授（愛媛大学）
 - ・39 ページ以降の内容は良いと思う。
 - ・地域路線については地域で考えることとなっているが、幹線についてはもっと危機意識を持った書き方にしてほしい。
 - ・限界集落の問題等についても触れ、都市経営のような視点をもって市全体の問題としてとらえてほしい。
 - ・ネットワークの視点のため、地域の移動需要を詳しく解明してほしいので、アンケートをもう少し地域別で分析してほしい。
 - ・また、アンケートを世帯ベースで分析してほしいと思う。
- 事務局
 - ・地域の特徴を踏まえたうえで、どう公共交通を使ってもらえるかが重要と考えている。
- 会長
 - ・この素案について、承認を頂ければと思う。意義はあるか。
 - ・特に異議はなかったなので、この素案で進めていきたいと思う。
- 事務局
 - ・地域公共交通活性化再生法改正を受け、観光振興も求められているため、観光協会も委員に入りたいと思うが、それについてご承認いただければと思う。
- 会長
 - ・特に異議はなかったなので、入れることで進めていきたいと思う。

4 その他

- 事務局
 - ・それではこれで会議を終了する。
 - ・次回会議は1月中旬を予定している。またその際はどうぞよろしくお願いしたい。